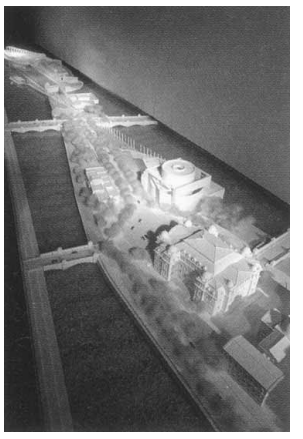
ミニミニ案内

●サントリーミュージアム「天保山」ギャラリー「安藤忠雄建築展2009―対決。水の都 大阪VSベニス―」　大阪が生んだ世界的建築家・安藤忠雄が提案する水都復活をかけた大阪都市再生プロジェクトと、今月竣工のベニスの最新プロジェクトを紹介。両プロジェクトを見ながら新しい大阪都市像を考える。併せて、＜水＞をテーマとした安藤忠雄建築の全プロジェクトを模型、映像、ドローイング等で多角的に紹介。安藤忠雄建築の一つである同ギャラリーを舞台にした＜建築＞と＜水＞のコラボレーション。同氏の記念講演やギャラリートーク等の関連企画も。五月二十三日～七月十二日(会期中無休)の十時半～十九時半(最終入場十九時)。当日大人九百円。地下鉄大阪港駅徒歩約五分。☎六五七七―〇〇〇一。



≪中之島プロジェクトⅡ(大阪)≫photo by 平井広行

●港図書館の催し　①五月三十一日まで図書展示「天文の本」展＝今年の世界天文年に因んで様々な視点から天文や宇宙に関する本を集め紹介②六月から「ロハスで暮らしを楽しむ」展＝健康的なエコライフを実践するのに役立つ本を紹介③毎月第一金曜日十一時から「あかちゃんのおたのしみ会」＝赤ちゃんと保護者が対象④毎週水曜日十五時半から「おたのしみ会」＝幼児を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊び、わらべうたの紹介など。☎六五七六―二三四六。

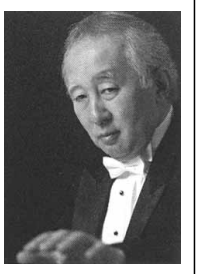
●交通科学博物館・企画展「旅ゆけば～鉄道でつづる旅と観光～」　五月三十一日まで開催中。〝旅と鉄道〟をテーマに懐かしい昭和の旅を再現。①歴史＝鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がりを文学、レジャー、団体旅行等の資料とエピソードで②楽しみ＝鉄道旅行と関係の深い「衣」「食」「泊」「遊」を昭和三十～四十年代を中心とした写真や実物資料で③列車＝現在全国で活躍する貸し切り・イベント列車を写真パネル等で。先日引退した「富士・はやぶさ」ヘッド・マーク＝**写真**＝も。十～十七時入館、月曜休館(祝日なら開館し翌火曜休館、火曜も祝日なら振替休なし)。高校生以上四百円、四歳～中学生百円。JR弁天町駅すぐ。☎六五八一―五七七一。

「富士・はやぶさ」のヘッド・マーク

●弁天町市民学習センター「第175回オーク弁天寄席」　関西を中心に活躍する若手・中堅芸人による誰でも気軽に楽しめる定例寄席。出演は笑福亭学光、旭堂南麟をレギュラーに毎回多彩な顔ぶれ。主催はオーク弁天寄席の会と同センター。五月二十七日(水)十九時～二十時半。当日先着百二十人。入場無料。☎六五七七―一四三〇。

●たかはしべん音楽活動30周年記念コンサートin大阪　三十歳で退職しフォークシンガーとして全国で三千のコンサート。「空を飛ぶ子ども」など子どもの心を歌った問題作や「おかしなお菓子」などユーモアとペーソス溢れる歌を数多く作詞作曲、感動と共感を得てきた。五月二十三日(土)十四時から海遊館ホール(地下鉄大阪港駅①出口歩五分)で。高校生以上二千円、四歳～中学生千円。たかはしべん音楽事務所主催。問合せはあおぞら学童クラブ☎六五七一―六八四三へ。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第212回定期演奏会」　敬虔な創作姿勢が多くの信奉者を生んだフランスの大家セザール・フランク晩年の大作「交響曲ニ短調」。激変する旋律とその背後をうごめく音群、幾度もの転調で響きに彩りを与えながら重厚に進むこの大曲を、ロス・フィルの首席ヴィオラ奏者を長く務めた大山平一郎＝**写真右**＝が指揮、フランクの執念を丹念に甦らせる。一方、悪魔的な技巧と高潔な精神とが同居し、ピアノ曲随一の難曲といわれるラフマニノフの「ピアノ協奏曲第三番ニ短調作品30」には、実力派・横山幸雄＝**写真左**＝と臨む。六月二十六日(金)十九時からザ・シンフォニーホール(JR福島)で。十八時四十分から指揮者プレトーク。S五千円、A四千円、B三千円、学生千円(全席指定)。☎六五七七―一三八一。



●アートスペースZtoA　①「野鳥と初夏の風景」展＝五月十～十九日(十六日臨休)②「枇杷と紫陽花」展＝六月一～九日。開館は十一～十八時(火曜十六時まで)、水曜定休。入館無料。弁天四―一一―四(ピアック西五十メートル裏通)☎六五九九―七九七七。

●みなとでも～あしび～　沖縄県人会の青年部が同県人の親睦と会の活性化のため取り組む音楽イベント。二回目。琉球舞踊、沖縄民謡、三線、島唄、エイサー、獅子舞、フォーク、ラテン、吹奏楽、お笑い芸など多彩な出し物。車椅子寄贈のチャリティも。「も～あしび～」とは「自然の中での自然な集まり」を表わす沖縄言葉。港区沖縄県人会青年部主催。五月十七日(日)十四時から港区民センターで。一般千五百円、中高生五百円(一飲物付)。☎〇八〇―六一一四―八二六三吉本。

●港近隣センター懐かしの名画大会『マリリンに会いたい』　主演安田成美、加藤昌也。六月七日(日)午後二時～。会費百円。同センターは八幡屋一―四―二〇(入舟公園隣)。問合せは主催の港区コミュニティ協会☎六五七二―〇〇二〇へ。

ひとくちPR

(1行＝税込1000円)

●中高年基礎英語　弁天町市民学習センター(金)AM(月4)四千円、(水)AM(第2・4)二千円。入会金無。見学可。☎6614・3299和田

●ポータブルミシン譲って下さい　☎090・5898・1945ソネ。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●サントリーミュージアムギャラリー「安藤忠雄建築展2009」(上段に案内)招待券をペア5組に。

●交通科学博物館(上段に案内)招待券をペア3組に。

●関西フィル「第212回定期演奏会」(上段に案内)A席招待券をペア1組に。

●ユニット・人間やろか『日々是好日』(6面に案内)招待券をペア3組に。

●香西かおり(6面に情報)**サイン入り卓上カレンダー**を2名様に。

平和のため 戦争体験 語り継ごう

機銃掃射の犠牲悲惨

体験語り継ぐ大切さを痛感

今月の語る人　岩崎一郎さん(79)(磯路)　＜下＞

(前号まで　昭和二十年、十六歳の私は西成区に住み学徒動員で勤労に就いていた。三月十三日深夜の空襲警報で、防空主任の父は隣組を防空壕に避難させ、私は父と行動を共にした。B29から投下される無数の焼夷弾に街は火の海となり、直撃で即死者も。三～四時間で全ては焼き尽くされ、後には黒い雨が降った―)

◆日本機は歯が立たず

その後も四、五、六月と連続的に空襲がありました。この時分はもう制空権というのは完全に米軍に握られていました。日本の戦闘機が八尾や泉佐野やらの飛行場からB29に向かってパーッと飛んで行くのですが、ちょっと下まで行ってもそれ以上は上がりません。B29はとても速く、日本機は途中で引き返すしかありませんでした。高射砲もほとんど当たりませんでした。

◆操縦士の顔が見えた

B29と共に怖かったのはグラマンという艦載機の機銃掃射でした。兵隊の機関銃は横に振りますが、飛行機のはイノシシみたいにまっすぐバァーッと来ます。ですから下手に逃げたら却って危なかった。それに昔は高い建物がなかったんで、家のちょっと上ぐらいまで、しかも物凄いスピードでシャーッと急降下してきて、「来る!」と思った時にはもう目の前。そして忘れもしません。操縦士の顔がはっきり見えたんです。

◆機銃掃射ではらわたが

そんな機銃掃射の犠牲者として今も目に焼き付いているのは、四十歳ぐらいの女の人です。まともに背中に食らい、うつ伏せに倒れました。「大丈夫か!」と周りの人が近寄って見たら、背中に穴があいていました。仰向けると、何とはらわたがバァッと出ています。機関銃の弾は回転しているので、中に入ったら傷口が広がるんです。それはもう悲惨なものでした。

六月一日、西成辺りはまた空襲に遭いました。そして八月十四日、昼の十二時頃。京橋、桜ノ宮、それに「砲兵工廠」という大砲や砲弾などをこしらえる陸軍直轄の工場が爆撃に遭いました。京橋の駅では相当の死者が出ました。それが大阪の最後の空襲でした。

◆退職後は平和活動も

戦後、私は南市岡の田中機械で定年まで働きました。退職後はNPOみなと(南市岡三)に参加し、微力ながら福祉と平和のために活動を続けております。

私の子供が小さい時分、今お話ししたような戦争の話をしましたら、「そんなにひどかったん?」という言葉が返ってきました。「ひどかったどころの騒ぎやない。おじいちゃんと二人、死にそうやったんやで」―そう言いながら、戦争が遠ざかるにつれて戦争体験も風化していくのを痛感していました。そして今、一時も戦火が絶えない世界の現状を見るにつけ、改めて、生き残った戦争世代がその体験を語り継ぐことの大切さを感じています。

昭和26年、南市岡の田中機械で働いていた22歳の頃

戦争というのがどんなに悲惨なものか、拙い話でしたが、少しはお分かり頂けたのではないかと思います。「とにかく戦争だけは絶対にやったらあかん!」―腹の底からそう思っております。

(終わり)

アスベスト不安のある人は継続的に **肺がん検診を**
6月23日(火) AM9:30～10:30
港区保健福祉センターで＜要予約・40歳以上＞
X線撮影無料・喀痰検査400円
※5月29日(金)、6月26日(金)には結核健診も
詳しくは☎6576-9882同センターへ

サラ金・クレジットローンなどを利用中の方
違法なグレーゾーン金利の被害者になっていませんか?!
弁護士の無料法律相談実施中!
あなたに合ったベストな解決方法は必ずあります《秘密厳守》
安心してお任せ下さい!
内緒のままでも対応OK!
親切、ていねい、気軽に相談できる
大阪弁護士会所属 黒川・谷 法律事務所
弁護士 黒川 勉(日弁連登録番号15687)
弁護士 谷 憲和(日弁連登録番号39554)
北区西天満2-8-1大江ビル411号室　地下鉄・京阪「淀屋橋駅」歩7分、JR「大阪駅」歩15分　☎06-6130-7880代　〈受付:月～金曜/10～18時〉